

7月19日のウクライナ情報

安斎育郎

●石油の増産交渉の結論は出なかった(ニューヨーク・タイムズ、2022年7月16日)

大統領就任後初めて中東諸国を訪問したバイデン大統領は、7月15～16日、サウジアラビアを訪れて、ムハンマド・ビン・サルマン王子(国王)と石油の増産などについて話し合ったが、結論を得なかったと伝えられる。「アメリカとその同盟国には石油が与えられそうにない」とも言われる。同国王は、ペルシャ湾とアメリカ首脳との会議冒頭で、サウジアラビアは、「計画では1日1000万バレルの生産量だが、現在は需要に応じて1200万バレルを生産している。上限は1300万バレルだから増産するにしても最大100万バレルだ」と述べた。石油価格高騰への対策としては大きな影響を与えそうもない。現在、世界第二位の石油輸出国はロシアである。ロシアへの敵視・制裁政策ではうまく行きそうもない。

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1548069392529117184/photo/1>

※安斎注:石油調達もさることながら、サウジアラビアが来年にも BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国の金融システム)に参加の意向が伝えられていることは、アメリカにとってさらに深刻なことに相違ない。

参考までに、プーチンを迎える映像は下をご覧ください。ウクライナ戦争は単なる地域紛争ではなく、これをめぐって米ロ両国を中心に、世界のあり方をめぐる戦略的な意図がぶつかり合っているということだろう。

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1548136236782882816?s=20&t=rppBf0SCTFIrlJXgMOP2r7g>

●ハンガリー首相ヴィクトール・オルバーン見解(2022年7月16日)

ハンガリーのヴィクトール・オルバーン首相は、「制裁政策は期待に応えられず、逆効果だった…。最初は自分たちの足を撃ったと思ったが今は欧州経済が自分たちの肺を撃って窒息しているように見える」との見解を示した。



※安斎注:ハンガリーのヴィクトール・オルバーン首相と言え、時に「独裁的ナショナリスト」と言われながら、2022年4月には国民の支持を集めて選挙で批判派連合を打ち破って当選し、プーチン大統領とは良好な関係を保ち、ゼレンスキー大統領を「敵」と呼んで憚らない。しかし、ウクライナ戦争については「これは我々の戦争ではない。手を出すべきではない」とし、ウクライナへの武器供与を拒否している。ハンガリーはEUの一員だが、石油の96%をロシアに依存しており、同首相はロシアからの石油輸入を全面禁止するEUの方針に異を唱え、「EUの厄介者」ともみられている。しかし、ロシアへの石油依存度一つをとっても、オルバーン首相が、「ロシアの石油の禁輸は、わが国の経済に対する原子爆弾だ」と反発したのも理由があると考えられ、同首相の徹底的な反対で、EUはハンガリー向けのドルジバ・パイプラインはボイコットの対象から外することになった。

●アメリカが肥料や食料の対ロ金融取引を認める(2022年7月16日)

アメリカがロシアとの肥料や食料に関する金融取引を認めた。

※安斎注:取りざたされている世界的な食糧危機について、「ロシアのせい」と主張してきたことが事実上「反プーチン」の「プロパガンダ」に過ぎなかったことをアメリカが認めたとも考えられる。むしろ、この危機は軽率な制裁によってアメリカとその同盟国が引き起こしたものとも言えるが、ロシアは世界の肥料や食料の供給の面で極めて重要な地位を占めており、ロシアとの貿易関係を断ったのでは実際上どうにもならない。ロシアは世界市場における肥料の主要供給国の一つであり、ベラルーシとの同盟により独占的な地位を占めている。ロシアからの肥料の使用を拒否すると、先進国では作物の収量が 30~40%減少する可能性があり、価格に大きな打撃を与えるおそれがある。アメリカは、ロシアから食料や肥料が供給されなくなると自国の食料市場が更に脅かされるリスクがあることを懸念しての判断だろう。

●ドイツの「洗い方」ポスター(2022年7月16日)

このドイツの子はウクライナの国旗を持っています。

だんだん「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」みたいな感じになってきたかな。
燃料不足でお湯が出なくならないように、ということですかね。



プーチンに反論するならこの4か所だけ洗いましょう。

(水も自由に使えるように保存しておく必要があります)

股間、脇の下、足、お尻

●ロシア語話者へのウクライナ人の対応(2022年7月16日)

ロシア語で電話をしていた若者が追いかけて殴られ、銃を向けられた

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1548291919209705472?s=20&t=V5t23wCXyngqhToJGeVYdQ>

※安斎注:。何だか、戦時中、朝鮮語を話していた留学生が治安維持法違反で検挙されたことを思い出す。

●「ロシアは死体を犬に食わせた」証言のアメリカ人傭兵の事実(2022年7月16日)

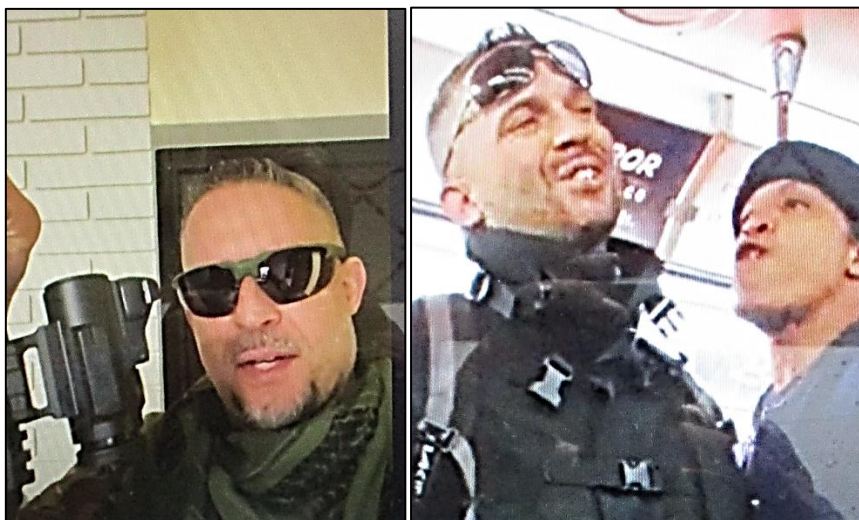


日刊ゲンダイ(4月3日)

ツイッターでその名を知られ、アメリカの退役軍人でウクライナ傭兵として参戦しているというジェームズ・バスケスは、アメリカの地下鉄で喧嘩しているところを映像化された。彼は「ロシア軍は遺体を犬に食わせている」とTikTokで発信して話題になったが、「現実の世界はTikTokとは違うんだよ、ジェームズ。ウクライナの近くにもいなかったんだろ」と冷やかされている。ゴンサロ・リラさんは、「ジェームズ・バスケスという自称アメリカの退役軍人の動画はウクライナのプロパガンダだ」と、動画を細かく見ながら説明している。バスケスは俳優で、いくつかの映画に出演している。

James Vasquez the famous tiktok mercenary in Ukraine got his ass beaten on the subway in America. Well the real world isn't TikTok James. Bet you weren't even near Ukraine.

<https://twitter.com/littlemayo/status/1548075944975314946?s=20&t=LPKiFrasBh7fl8xWUcJtSg>



プロパガンダ映像出演中 ニューヨーク地下鉄喧嘩中
髪の色、髭などの具合から、同一人物ですね。

●ブチャの大虐殺に関するドイツの真面目な番組(kla.tv、2022年4月11日)

今更ながらという感じだが、ドイツのテレビ局は「ブチャの大虐殺」について、事件から1週間後には真面目な疑問を投げかけている。西側報道べったりの日本のマスコミには、こういう視点が欠落しているのだろうな。

<https://www.kla.tv/22232>

●戦争報道 - ペンタゴンからメディアへの指令？(ドイツ kla.tv、2022年6月2日)

NHK はこういう番組を制作できるかな？

<https://www.kla.tv/22692>

●ガンザー博士が語るウクライナ紛争:真実の裏側(ドイツ kla.tv、2022年4月12日)

Kla.tv3連発だが、日本のマスコミが学んでほしい番組制作姿勢です。

<https://www.kla.tv/index.php?a=showlanguage&lang=ja&id=22242&date=2022-04-12>